

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 藤 木 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

(2) 本校の学力調査結果の分析

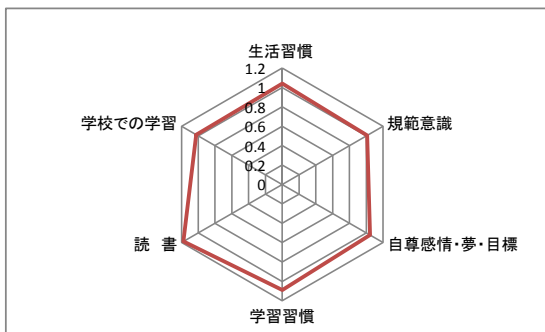
国語A	全体的な傾向や特徴など	・昨年度に比べ、全体的には正答率が上昇した。特に、言語についての知識・理解・技能や話す・聞く能力は、全国平均を上回っていた。 ・読む能力を問う問題に課題があったので、根拠となる表現を見つながら読むことを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	漢字を読んだり書いたりする問題、話合いの説明として適切なものを選択する問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	ローマ字を書いたり読んだりする問題は、無解答率が高く、正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を基準とした正答率は、昨年度より上昇していた。 ・読む能力を問う問題に課題があった。目的に応じて、本や文章を比べて読むなどの効果的な読み方を指導する必要がある。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	目的や意図に応じて、表やグラフを基に自分の考えを書く問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する問題は、無解答率が高く、正答率が低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・正答率は昨年度より上昇し、全国平均正答率と同程度であった。数量や図形についての技能は、全国平均を上回っていた。 ・数量関係を問う問題に課題があった。示された場面を適切に読み取る力を指導し育成する必要がある。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	小数が含まれた四則計算を解く問題は、無解答がなく、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	数の大小を比較する問題や割合を使った問題は、正答率が低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に昨年度より正答率が上昇した。数量や図形についての知識・理解は、全国平均を上回っていた。 ・ある図形を組み合わせてできる図形の形や角の大きさを問う問題に課題があった。図形の操作を繰り返し経験をさせる必要がある。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	決められた大きさの紙に描くことができる決められた大きさの正方形の数を求める問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	示された資料だけでは判断できないものを選ぶ問題は、無解答率が高く、正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・話し合う活動を通じて「自分の考えを深めたり広げたりすることができている。」「自分の考えを表現することは難しい。」と回答している児童の割合が増えた。 ・就寝時刻、起床時刻、朝食を食べるなどの基本的な生活習慣が、より整ってきた。 ・テレビ等への長時間の接触者やテレビゲームを1時間以上するという児童の割合は、大幅に減少していた。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ○授業では、必ず学習のめあて及びまとめを板書し、必ず振り返りの時間をもつことを全校で取り組んだ。また、どの教科でも話し合い活動を位置付け、積極的に授業に取り入れるように研修をした。 ○朝学習で、言語力、計算力の向上の取組を継続して行っている。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ○小中連携で「よい子の約束」「学習のきまり」「家庭学習の手引き」を各家庭に配布し、保護者へ啓発するとともに各学期毎に児童に指導を行って徹底を図っている。 ○家庭学習チャレンジ週間を設け、家庭学習の仕方を集中的に指導することで、家庭学習の徹底と内容の向上を図っている。
--